課題番号２

新規参入者に対する営農支援

～　新規参入ロールモデル育成　～

対象：令和の開拓の会　６戸

１　活動の背景

岩見沢市・三笠市では近年、施設野菜、露地野菜を中心とした新規参入希望者の受け入れを行っており、新規参入者が地域に定着することが期待されている。令和４年、普及センターが主体となり、新規参入者が農業技術の学習や互いに協力できるように「令和の開拓の会」を設立し、経営の安定に対する支援を行っている。

２　活動の経過

〔推進事項　就農定着化に向けた営農支援〕

対象者：令和７年就農２名　令和６年就農３名　令和５年就農１名

- 意見交換で対象者のニーズを把握し研修会を開催した。
  （就農状況研修、新規参入優良事例研修）
- 栽培技術が向上するように、定期巡回を行った。
- 関係機関とともに伴走支援を行った。

表１　活動内容

時期	回数	人数	内　　容
4～11月	13	78	栽培技術に関する支援
4～11月	5	25	関係機関との定期巡回
4～2月	6	24	例会
５月	1	7	会員宅訪問による意見交換（工藤・渡辺）
６月	1	4	新規参入優良事例研修（由仁　広瀬宅）
11月	1	5	新規参入優良事例研修（三笠　上原氏講演）

会員宅訪問

新規参入優良事例研修

情報交換会

３　成果の具体的内容

〔目標事項〕営農計画収量目標の達成農家戸数

普及対象６戸　（目標６戸→実績１戸）　到達度合：１７％

A氏は、作業分散のために普及セの提案した６月定植に取りくみ、管理作業が順調に行われた。一方、半身萎ちょう病が発生し１０%程度が欠株となったため、接ぎ木苗を提案した結果、導入することになった。

B氏は、アワノメイガが大発生したため、収量は目標の半分以下となった。普及センターが主要品目の作付け変更を提案した結果、次年度以降はスイートコーンをやめ、たまねぎを中心とした経営に移行することになった。労力不足の状態は続いている。

C氏は、本年2haの規模拡大を行い、労働力不足の状況である。昨年は施肥方法などの基本的な管理ができていなかった。本年は昨年の反省を踏まえ管理技術は向上しているが、灌水管理が不十分であったため、土を触って水分を確認することなどを指導した結果、灌水管理技術は向上した。

D氏は、労働力に合わせた作付け計画を行っているため、収量品質も安定している。本年は普及センターへの問い合わせが少なくなったため、基本技術が身についたと思われる。今年の実績が自信となり、次年度はハウス棟数を増やすことになった。

E氏は、普及センターが全雄ガリバー（品種）の作付けと堆肥施用を提案した結果、２年目株で310kg/10aと高収量となった。しかし、労働力不足で立茎栽培ができなくなり、除草作業もかなり遅れている。

F氏は、ライムソワーでの施肥に散布ムラなどがあったが、高温により目標収量に達しなかったが、価格が高かったため、所得は目標に到達した。

表２　営農実績

	主要品目	収量目標（kg/10a）	
		R7目標	R７実績
A	ミニトマト	4000	2444
B	スイートコーン	630	188
C	ミニトマト	3600	2500
D	ミニトマト	5200	4600
E	アスパラ	100	310
F	たまねぎ	5200	4200

新規参入優良事例講演

４　今後の課題と対応

・定期巡回による技術支援
・関係機関との支援のあり方会議の開催
・各人の課題に対しての解決方法の提案

【作成者　空知農業改良普及センター本所　地域第１係　専門主任　平門 隆良】